

献呈の辞

高木勝一先生がご壮健のうちに古稀を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げますとともに、古稀を寿ぐ本論文集に、法学部長として一言ご挨拶を申し述べます。

高木先生は、昭和四〇年に日本大学理工学部を卒業された後、同大学大学院経済学研究科に進み、同四八年に日本大学短期大学部助手として本学に着任されました。同五〇年には専任講師に、同五三年には助教授にとそれぞれ昇格され、文理学部助教授（同五四年）を経た後、同六一年に本学部に助教授として着任されました。平成元年には本学部教授に昇格され、法学部において、研究担当、学務担当、図書館長等の要職を歴任されました。

ここで先生のご研究につき申し述べますに、先生は、理系ご出身の明晰な分析能力をもって、経済学の中でももっぱら財政学、租税論の分野に取り組まれ、本書巻末に掲げられているとおりの、数多くの論文を執筆されました。これらの論文を踏まえ、先生は、財政学におけるご自身の体系をご著書『現代財政学』において簡明に示されました。また先生は、租税論の分野における研究をご著書『日本所得税発達史』としてまとめられ、当然のことではありますが、先生は、同書により日本大学から博士（国際関係）の学位を取得されました。これらの研究業績は斯界の広く知るところであり、先生は所属する多くの学会において理事の要職を歴任されました。

先生の日本大学に対するご貢献を語る場合、教育の分野に関するものを欠かすことはできません。先生は、学部教

育は当然のことながら、とりわけ大学院教育に熱心に取り組まれ、先生の研究室からは、多くの修了生が税理士などの税実務家として巣立っていきました。高木先生の修士論文指導の熱心さ、厳しさは定評があるところでして、高木研究室は、未来の税実務家を目指す者が集う、まさに日大の「梁山泊」とでもいべきものでありました。

このような先生のご経歴、ご業績に鑑み、先生の古稀を慶賀し、日頃先生の聲咳に接する学内外の親しい友人が集まり、本論文集『経済と社会』を刊行することになりました。本論文集は、この手のものとしては異例ではありますが、学内外がほぼ半々となっておりまして、高木先生のご人徳と幅広い交友関係を反映し、きわめて浩瀚なものとなりました。

末筆ながら、高木先生の益々のご活躍と、本論文集の学界への多大なる貢献とを祈念し、献呈の辞といたします。

平成二五年一月吉日

日本大学法学部長 杉 本 稔